

成果指標				
成果指標	上水道料金計算及び収納処理事務の電算システム使用に係る代替として市に支払う委託料を記載する。			
指標設定の考え方	市への限定された委託料であり、成果指標の設定は困難である。			
区分年度	24年度	25年度	26年度	
目標	1000	1000	0	0
実績	1000	1000	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	3	C
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	上水道の収納業務を電算システム化することで、収納内容が即座に把握でき、事務の適正化・効率化が図られ、また事務費の削減にも繋がっている。今後とも電算システム上における情報の共有化を図ると共に、より一層の事務の適正化・効率化に努める必要がある。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	3	C
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	水道料金や下水道使用料の収納業務を適切かつ効率的に処理し、事務経費の削減に繋げるためには電算業務は必要不可欠なものである。今後とも継続して電算システムを活用することで、事務処理の適正化・効率化が図られるものとする。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題